

会 議 録

会議名	平成25年度 第2回定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成25年12月20日(金) 午前9:30~10:20
開催場所	丸亀市役所本館2階第3会議室
出席者	(出席委員) 板倉 宏昭(会長)、野村 明宏、瀧原 祥夫、高橋 勝子、高木 和代、 角野 幸治、都村 忠弘、神原 正、宮武 浩一 (欠席委員) 草薨めぐみ、森 茂(副会長)、平田 正数、鈴木 貴信、谷 委紀
議 題	・瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョンの見直しについて
傍聴者	1人
事務局	丸亀市企画財政部長、政策課 (関係市町) 善通寺市政策課、多度津町政策企画課、まんのう町企画政策課
発言者	議事の概要及び発言の要旨
板倉会長	<p>次の議題について協議し、結果は以下のとおりとなった。</p> <p>(1) 瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョンの見直しについて</p> <p>前回(H25.7.25)会議での意見への対応状況や会議後にいただいた意見、参考指標について説明した。また、共生ビジョンに関する今年度の主な見直し内容及び今後のスケジュールに関する説明を行なった。</p> <p>情報発信は大切であり、丸亀市では定住自立圏のページを作成しているようです。県内で同様に圏域を形成している高松市でも、中心市のみがページを設けているという意味では同様の状況ではありますが、この圏域において、2市3町共通した定住自立圏に関するホームページの作成はこれからということでしょうか。</p>
事務局	<p>ホームページについては、今後の取組の展開として、定住自立圏のページを単独で設けた方が良い場合には、例えば、圏域内で活躍されている方や委員の皆様のご紹介など、そういった部分での活用も含めて考えていきたいと思いますが、現在のところ、圏域市町間で相互にリンクし、情報共有を図っているという状況です。</p> <p>今後、先ほど申し上げたような、人に関する情報等もどんどん紹介していけるような環境にできればと考えておりますので、そういった情報がありましたら、またお寄せいただけたらと思います。</p>
角野委員	<p>P26「地域情報の共有化と情報発信」にケーブルテレビという文言が出てくるのですが、この圏域内で未整備の地域について、定住自立圏の事業費や助成金で整備を進めることは出来ないのでしょうか。</p>

善通寺市政 策課	善通寺市では現在、具体的な予算化にはいたっておりませんが、ケーブルテレビの整備については、今後も議会のケーブルテレビ中継の活用等を含め、引き続き検討してまいりたいと考えています。
角野委員	単独での整備となると非常に難しいと思いますので、この定住自立圏構想の予算が何か使えれば良いと思います。
神原委員	同じ項目の中で広報紙の活用があります。以前、定住自立圏の取組に関するパブリックコメントをしていたと思いますが、各市町で表現がまちまちで、どこに書いているのかわからないようなものもあり、広報紙を実際に見ても、これではどうかなという印象を受けました。その結果、意見も少ししか出てこなかったということもありますので、広報紙の表現の仕方に関して、もう少し統一的にして欲しいです。
事務局	広報紙については、例えば定住自立圏のコーナーを設けるなどが出来れば、わかりやすくなるのかもしれませんが、それは担当課に伝えたいと思います。一方で、広報紙の構成自体は市町それぞれの思いで特徴を持たせた構成にしていますので、統一自体は難しいですが、これにどのように定住自立圏をわかりやすく組み込んでいくのかについては、今後の課題だと思います。
高橋委員	P19, 20の「金毘羅街道の活用」「瀬戸芸の有効活用」について、5年間の中で事業費が0になっているところがあります。P20の瀬戸芸は、その開催時期かどうかで0になることもわかりますが、P19については、途中で事業費が0になるというのはさびしいと思います。観光などは、人が関わることで周知もできて活性化もされると思いますので、そういった人材の活用も視野に入れて、予算等もそれに見合うものをつけていただけたらと思います。
事務局	<p>「金毘羅街道の活用」に関しては、今年度作成しているパンフレットの完成予定時期が12月であり、これを平成26年度に使うことから、平成26年度の事業費を0円としています。取組自体は連携のうえ、継続してまいります。</p> <p>また、レンタサイクルや道しるべの整備に関しましても、検討中ということですので、協議が整い次第、ビジョンにも反映してまいりますし、今回の見直しの最終案が固まるまでに新たな取組で追加できるものがあれば盛り込み、またご紹介させていただきます。</p>
高橋委員	その新たな取組の提案は、この場を出していけるのですよね。
事務局	はい。ただし、ご提案が実際に定住自立圏の取組としてやるべき性格のものなのか、また、できるものなのかという担当課による整理も必要ですので、まずは、この場ではこういった視点もあるということでご意見いただければと考えております。そのう

	<p>えで、担当課の方で取組を検討する際には、そういった視点も踏まえて具体的に考えるという形になります。</p>
高橋委員	<p>では観光における人材育成の視点ということで。例えば、現在は観光案内をボランティアでしているようですので、有償という方法も考えていただければ、もっといろいろな方に関わっていただけるのかなと思います。</p>
都村委員	<p>定住自立圏構想は2市3町で話し合っ、一緒にやっていけるものはやっていこうということで始まっており、それで現在実施できているものはいいと思うのですが、それと同時に、各市町独自にやっている事業もお互いに参考にしながらやっていかなければならないのではないのでしょうか。職員間で話をする段階で、もう少し、そういった観点から共通してやれるものがないか検討し、事業に追加することも大切だと思います。私たち委員は、自分が活動している市町を取組は知っていても、それが他の市町でもやられているかどうかはわかりません。ですから、そういったものは職員間の話し合いを出来るだけしていただいて、こうした取組がどんどんと積み重なっていけばいいと思います</p> <p>例えば、2市3町で手数料や保育料の違いなどもありますが、そういったことも出来るだけ平準化したら良いと思いますし、最近話題のふるさと納税もどこがやっていて、どこがやっていないのかもわかりません。</p>
事務局	<p>協定締結前には、それぞれの市町からいろいろと事業の提案をだしていただいて、それで調整した結果が現在の協定内容に結びついています。</p> <p>また、行政事務自体かなりの数がある中で、それぞれに異なった制度でやっていることはあり、おそらく担当者間協議の中ではいろいろな制度のつきあわせはされているとは思いますが、今後、より密接な連携と情報の共有に努め、出来ることから積み重ねてまいりたいと考えています。</p>
瀧原委員	<p>滞在型観光を推進されており、レンタサイクルや道しるべの整備等もこれからやるとのことですが、どこからか人（客）を呼ぶときに一番手っ取り早い検索方法はホームページだと思います。</p> <p>せっかくレンタサイクル等をやるのであれば、ホテルとも連携して、「ここで宿泊するとレンタサイクル・道しるべがセットになっています。」というように、宿泊と観光事業をタイアップしてホームページ等でPRしていくと、「ここはお得だな。」「行けば何とか楽しめるのだな。」ということで、自分から調べなくても行ったら楽しめるという企画をするのもいいと思います。ネットでの情報収集が常識的な形になってきていますので、そういった民間とのタイアップも考えていただけたらと思います。</p>
板倉会長	<p>宿泊の経済効果は高いですし、広域的にいいところもたくさんありますので、そういったところをうまくつなげていければ良いですね。</p>

角野委員	<p>観光の部分で共通のパンフレットスタンド設置という取組があります。瀬戸芸の場合は丸亀港や多度津港に人が集まって、そこからどこに行こうというようになるのですが、瀬戸芸が一段落すれば、圏域内にスタンドを設置していても効果に疑問がありますので、人が集まるところに情報を出さなければいけないと思います。この辺の情報であっても、例えば高松駅や県外の高速道路の与島 PA や岡山県の SA など置くような工夫も検討したほうがいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>圏域内での情報発信はもちろん大切ですが、圏域外での情報発信というのは、特に観光分野で大切であり、検討はしていると思います。また出来るようになりましたら報告したいと思います。</p>
瀧原委員	<p>別紙の前回の会議後の委員意見の中に、大学と連携して出来ること、出来ないことを教えて欲しいとありましたが、確かに本校（四国職業能力開発大学校）でも PR 不足というご指摘はいただいております。そこで、現在、本校の HP について、来年 4 月のリニューアルに向けて、これまで学生向けの情報がほとんどであったところ、地域の方に向けたページも検討しているところであります。</p> <p>いただいたご意見を受け、自らも改善していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>3 大学と協定を締結しまして、現在、各市町の連携意向を大学側に投げかけている状況でありますので、双方の思いが一致するもので、広域でできるものがあれば、ビジョンに入れていきたいと思っております。</p>
野村委員	<p>別紙の「第 1 回ビジョン懇談会後にいただいた意見」の（2）オに四国学院との連携で子どもの演劇体験の場とあるのですが、これは委員からの意見なのでしょうか。</p>
高橋委員	<p>はい</p>
野村委員	<p>四国学院ではこうした演劇教育を最近熱心にしておりますので、大学の方から出た意見なのかどうかを確認するために質問させていただきました。</p> <p>あと、事業費の積算は基本的に関係市町の事業ごとの予算を合算したものだと考えますが、共生ビジョンに関する独自の予算が全くなく、既存の予算の枠組みの中で活用するという形なのであれば、新しい事業や取組をするときには、財源確保の関係で実施が困難になる場合もあるのではないのでしょうか。先ほどの善通寺市のケーブルテレビの問題についても、ひとつの市だけの予算でしかできないのか、それとも全体のことを考えて、プールしたものを円滑に活用できるのか、その辺はどのようになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>事業費については、例えば丸亀市で全額をまずは支出して、後で関係市町が必要経</p>

	<p>費を負担するという形でしているものもありますし、事業ごとに予算措置について協議している状況です。</p>
野村委員	<p>スケールメリットをいかにするために2市3町が集まってやっていることであり、限られた予算をいかに効率的に使うかということだと思います。</p> <p>(ビジョンの見直しの主な内容については確認いただいた。)</p>
	<p>(2) その他</p> <p>・大学との連携に関して、事務局より大学側に取り組みたい事業に関する資料提供を行ったこと、また、丸亀市12月定例会市議会において、「定住自立圏構想」という名称について、もう少しわかりやすい表現にならないかとの要望があったことについて報告を行った。</p>
都村委員	<p>名称については、かなり前の話にはなりますが、以前、20万人都市構想ということも言われていたが、あれくらいの言葉を使ってはどうですか。</p>
事務局	<p>現在のビジョンでも将来像の部分では「ひと・まち・たから～」ということであり、とやわらかい表現としているのですが、例えばここから引用して「つながるビジョン」など、正式名称は現在のものを継続して使いながら、言いやすいものがキャッチフレーズ・サブタイトルとしてあってもいいのかなと思います。</p>
神原委員	<p>呼びやすい名前があれば是非そうして欲しいと思います。また、このビジョンはとりあえず5年間ということでは始まりましたが、今後も継続する予定はあるのですか。</p>
事務局	<p>ビジョンは5年計画としておりますが、このもととなる協定書では特に期間を限定しているわけではありません。</p>
神原委員	<p>この試みは非常に良いと思っておりますが、こうしたビジョンを進めていくにはもう少し強力なリーダーシップやテーマを打ち出していかないと、徐々にすたれていくような気がします。そこで、事務局には何年も続けていくというリーダーシップを発揮して、先ほどの名称やテーマもそうですが、強力に進めてほしいと思います。</p>
角野委員	<p>中讃広域行政事務組合というのがありますが、そこをリンクして、何かすることはないのででしょうか。</p>
事務局	<p>中讃広域行政事務組合に関しては、ごみ処理や情報処理システムなど、これまで共同で処理してきたものを負担金という形ではありますが、ビジョンに盛りこんでおります。この中讃広域行政事務組合を構成する市町は定住自立圏を構成する市町と同じ</p>

<p>板倉会長</p>	<p>構成となっておりますので、この他にも中讃広域行政事務組合との連携も考えていきたいと考えています。</p> <p>大学との連携について、昨今は大学の機能として、教育・研究・地域貢献と言われており、学生にとっても地域の課題を考えるということは大変有意義なことであり、瀬戸芸に参加した学生も、地元の課題について実践的に考えられたということで、非常に勉強になったと言っておりました。大学との自治体との連携は、大学としても地域と有機的・組織的に繋がることのできる良いものであると思います。</p>
<p>野村委員</p>	<p>地域との連携は本校でも取り組んでいかなければならない課題であると思います。ただ、どういうアプローチをすれば良いのかという点がまだまだですので、考えさせていただきたいと思います。</p> <p>また、大学側から積極的にアプローチする形もありますが、地域の方からこういうことを大学に依頼してもいいのだという、開かれた形になっていく体制も必要になるのかなと感じました。学生も、これから県外ではなく地域に根ざした就職の形を考える必要がありますし、インターンシップのような形で、地域の企業や役所と関われるようなことが双方向で出来れば良いと思います。</p>
<p>瀧原委員</p>	<p>本校はものづくり系の学校ですので、企業とは連携してきたところがありますが、昨年度、地域の課題をテーマにした取組として、教員と学生が丸亀市の商店街の活性化ということでひとつの提案をしまして、その結果についても丸亀市に報告させていただきました。また、これまでボランティアについては、学生の自主性に任せていたのですが、ボランティア活動を授業としてとらえて、活動に応じて単位を与えようということも来年度から予定しており、地域のイベントに学生が出て行くことで、学生の成長を促すとともに、地域とのつながりをもっていきたいと考えています。</p>
<p>板倉会長</p>	<p>学生が地域の強みを知るということは非常に良いと思いますし、郷土愛を養っていれば、例え県外で就職しても地域のセールスマンになれるのだと思います。</p> <p>それでは、他に意見もないようですので、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。次回は2月から3月にかけてということですので、よろしくお願ひします。</p> <p>会議終了</p>